

## 平成27年度第8回「知事と語ろう市町村ミーティング in さげがわ」

<開催日時> 平成27年12月21日(月)

<開催場所> 鮭川村農村交流センター

<参加者> 約120名

### 【開催テーマ】人と自然と文化が輝くむら 鮭川

#### 【質疑事項】

- 1 小規模(中山間)の農業を守る政策について
- 2 平田と鮭川間の道路整備について
- 3 河川の復活整備について
- 4 最上地域の医療と病院について
- 5 いじめ再発防止について
- 6 やまがた創生総合戦略ー挑みの八策について
- 7 一般県道曲川新庄線の整備促進について

#### 【テーマに関する質疑】

- 1 小規模(中山間)の農業を守る政策について

<意見者>

日本は、特に山形県は65%が山地です。ここ最上郡は8割が山です。なので、農地の集約化や大規模化は、ごく僅かの農家しかできないんです。

ネットで調べたんですけど、スイスの農業はすごいんです。スイスは酪農国です。そして、標高によって乳価の値段が違うんです。もちろん、標高が高くなればなるほど、乳価は高くなるんです。フランスもそうだったということでした。そして、フランス農家の収入の9割を国の税金で賄っていると。そして、スイスの農家の人たち、また消費者は、標高の高いところで、高く作っている農家を絶対に責めないです。なぜかという、下の方で暮らす住民や農民は、中山間、山間部の農家が維持できなければ、水も来ないし野生動物がくるということで、絶対それは守らなければいけないということなんです。

今の農政というのは、「とにかく農地是集約化しろ」「生産効率を上げろ」それ一点張りなんですよね。それができる農家というのはごく一握りで、ほとんどが中山間、山間部の零細企業なんです。そして、兼業をしながらやっとそれを守ってきたんです。今、それがもう限界点に来ている。やっている農家の人も歳をとったし、若い人は出て行ったし。知事からは、現実の中山間地区の農産地を見て欲しいです。荒れ放題の畑や田、野生動物に荒らされたところ、現実の農家っていうのはそこなんです。国は何かというと、中山間直接払いを実施している、農地保全しているって言っていますけども、結局一番いいのは、農家自体の所得を増やすことなんです。フランスみたいに国の税金を9割もつぎ込んでも、自然を守る意味では、今の環境省がとっている予算以上の価値はあると思います。だから、6次産業化も大切でしょうけれども、県独自で、中山間、山間部の農家の農地を守る政策をとってもらわないと、おそらく10年後には平地も農家ができなくなると思います。野生動物は来る、水は無くなる、そうなるからでは遅いんです。一回田んぼを荒らし

たら元に直るまで5年以上かかりますから。もっともっと、現実を見て欲しい。

具体的な中山間、山間部の農業振興政策、この政策を立てていただきたい。でないと無人の農村になっちゃいます。

### <知事>

一番大変といいますか、難しいところといいますか、根幹のところの御提案をいただきました。今おっしゃられたように山形県の6割が中山間地農業でございます。それをどうしていくかというのは大きな課題だと思っています。これだというように簡単に答えというのはもちろん見つかっておりません。また、国全体の大きな政策という中で、食料自給率というのも、なかなか上げるというようなところが見えてないといいますか、とても大きな問題と繋がっていると思っています。

世界の主要国というのは、フランスであれ、アメリカであれ、自分のところの食料は自分のところで調達できるようにしております、そのための補助金といいますか、農家助成がしっかりしていると聞いています。それに比べると、案外食料自給率を上げるといいますか、自給できるということに対しての意識が日本は足りないのではないかと思います。山形県は130%自給率がありますので、何かがあっても県民は大丈夫なんですけれども、国が有事の際には、餓死する人が出てくるぞと言っているんですけれども。

戦争を知らない、経験してない、私も経験していません。有事の際にはどうしていくんだと、日本を食料攻めすれば、いっぺんで勝ると言っている国もあるそうであります、そういう重要なところでも、私は問題があると思っています。それが1点であります。

私は中山間地で育っておりますので、中山間地を知らない人よりは知っているといいますか、実感しています。それで、国は、今おっしゃられたように多面的機能支払制度ですか、中山間地域等直接支払制度というのを積極的に活用するよということをおっしゃっております。県では、活用する方向でお勧めをしているんですけれども、それがいつまで続くかということが分からないというのが正直なところです。平野の集約といういろいろな政策がありますが、県では、政府が中山間地に焦点を当てる前から、中山間地の集約のところに助成するというのを、数年前から始めているところであります。これからも中山間地の皆さんがどうやって農業を維持していけるかを、現場の皆さんのお話をお聞きしながら、しっかりと取り組んでいかなければならないと思っています。

中山間地は、国土の保全、水源の涵養、自然災害を防ぐほか、さらには文化、そこでお祭りをやったり伝統芸能を維持していただいておりますので、そういったものがなくなってしまうたら、日本の文化というのはものすごく貧しいものになっていくといいますか、観光に力を入れるにしても、日本らしさっていうのがだんだんなくなっていったら観光にも影響してくると思っ、結局、大変な損害になる、将来になるであろうということその視点も盛り込んで、政府に働きかけております。東北6県プラス北海道と一緒に、山形県からその視点も盛り込んでくれということで、その視点も盛り込んで、中央に提言をしているところでございます。

具体的などころでは、鮭川村では中山間地で、例えば花きの栽培、御意見者に言わせると成功例だけ出すなということになるかと思うんですけど、ただ成功例は増やしていかなければいけないというのも、それは有りだと思っんです。成功例を普及させていくということも有りだし、農業法人というところで、まず経営力のある方に経営してもらって、そ

ここで農業が好きな方が働ける場を作る。それも私は将来的には一つの大きな方向だろうなと思っ

ているところです。ただ、今すぐ所得補償を全部なくすとか、そういうことでは、次にどこで働けるんだということになりますので、そこは時間をかけて、進めていくべきだろうと思っ

ているところでございます。そのあたりも政府には提言をしております。さらに具体的な例になりますけれども、スモールビジネスというようなことを、その地域地域で、知恵と工夫、アイデアを活かしてスモールビジネスをやっていくというのも大事なところではないかなと思

#### <村長>

いますけれども、山間地は特に、ほ場の拡大ができないので、そこにあつたような作物を工夫していかないといけないんだらうと思

## 2 平田と鮭川間の道路整備について

#### <意見者>

います。特に山菜に関しては山間部は適地だと思うので、田んぼになっているところを山菜の栽培地に変更する場合も比較的可能だと思いますので、適地適作みたいなのを選んで生き残っていくと。ですから、規模の拡大だけでなく、小さいものの組み合わせによって、生き残られる農業を作れるのかなということ

を、そのような取組みに対しても、県も支援しているようでございますので、村も合わせて支援しながら山間地の農業をなんとか守っていきたくと思っ

#### <知事>

ています。山間地は条件不利地なんでね、それに対して中山間地の直接支払制度ができたんだと思

現の視点から高速道路や地域高規格道路の整備を促進するということ、二つ目は高速道路ネットワークと連携したインターチェンジアクセス道路の整備、三つ目が通学路の安全対策を含めた道路の交通安全の向上、そして四つ目が緊急輸送道路を強化する、五つ目が道路の施設の長寿命化対策ということで、これらを最優先する施策と位置付けて事業を行っているところでございます。

一般県道平田鮭川線のお話をいただきました。酒田市山元（やまもと）から鮭川村中渡（なかわたり）の未整備区間というものがあるわけですが、そこを整備して下さいということでございますが、私も、まだちょっと行ったことはないんですけども、どのような道路かということのをいろいろ聞きましたが、すぐに中期計画へ位置付けるというのはなかなか難しいところがあると聞いているところでございます。長い期間雪で閉ざされてしまうと、例えば年間通行できるようにするためには、整備して、しかも除雪経費がかなりかかるとか、その割に交通量が案外少ないとか、そうした具体的なことをいろいろ聞いているところなので、現時点ですぐに取り掛かるというのは大変難しいということを聞いているところでございます。

ただ、鮭川村の道路は、何もしないでいいということではもちろんございませんで、鮭川村から要望いただいているところがありまして、主要地方道路真室川鮭川線の京塚（きょうづか）地内の交差点改良工事。これにつきましては、来年度平成28年度の完成を目指して現在事業を進めているところでございます。それから一般県道曲川（まがりがわ）新庄線の居口橋架け替え事業につきましては、ここは大変せまい隘路区間がありまして、その解消を図るために、現在事業を進めているところでございます。それから、主要地方道真室川鮭川線佐渡坂（さどさか）工区の改築事業につきましては、着手に向けて今準備を進めている段階でございます。

私は、道路はとても大事な社会インフラで、道路を地域活性化の基盤だと考えておりますので、計画的に市町村の御意見もお聞きしながらしっかり進めていきたいと思っております。

#### <最上総合支庁建設部長>

平田鮭川線でございますけれども、現在、実態としては、林道が通っているという状況になっておりまして、未舗装で冬期間は閉鎖されるという道路になってございます。この道路につきましては、通年通行できるような整備をという御要望でございますけれども、先ほど知事から中期計画の考え方というのを説明申し上げましたけれども、そこにありますとおり、中期計画上、位置付けることがなかなか難しい。と言いますのは、通年通行ということを考えますと、現在のような形状ではまいりませんので、沢や川に橋を架け、また長いトンネル等を掘る必要が出てくるかなど。その場合、整備費用が莫大なものになります。そうした場合に、それが通った後どのぐらいの交通量が見込めるのかという問題になってまいりますけれども、大きく最上と庄内の交流ということを考えて場合に、現在、国の方で整備を進めていただいております新庄酒田道路というのがございます。あれが完成すれば、主たる流れというのは向こうの方になるであろうと考えられます。また、冬場の除雪ですね、県内でも雪の多い地域であるということを考えますと、そのための除雪の体制、それにかかる費用というのも相当莫大なものになるということが考えられるということで、現時点では、県としてなかなかその事業に向かうことは難しいというふう考えて

いるところでございます。

ただ、先ほど知事から説明ありましたとおり、現在鮭川村内で事業を進めさせていただいております箇所は橋梁補修等も含めると、今年度 9 箇所でございます。まずは、現在事業を行っている箇所を、早期に完成させるということが、私どもとしては、まず一番の課題と考えているところでございます。また、その他にも御要望いただいている中から、調査を進めている箇所もございます。そのような箇所につきましては、できるだけ早く事業化に向かえるように準備を進めてまいりたいと考えております。

### 3 河川の復活整備について

#### <意見者>

県内あちこちを見渡してみると、各市町村で毎年イベントを組んで、その市町村でお金を準備して、どうか来て下さいとそういうふうにご客を誘致するようなことを続けているのが現在で、それがすごくいいような状況になっているところが私には見えません。山形県にはすばらしい自然があるんだから、一番メインのものから勧めていくということを考えてもらいたいと思います。

最上川をはじめ、県内には素晴らしい川が流れています。その川が護岸工事とかで、見た目はきれいになっているように見えますが、2、30 年前の川と比べると、約 80%が砂と小砂利で埋まってきています。魚の方から見れば、懐の浅い魚の住みにくい川になってきています。それを復活してもらって、いい状態になれば、どうか来て下さいと頭を下げなくても、黙って人は訪れてくれるようになると思います。

今から 13 年ぐらい前から、県の方針で、県産の魚しか放流してだめだ、そして、10 年ぐらい前から、禁漁して遡上を多くしなければだめだというふうな指導で始まった川の状況ですが、私どもには、一向によくなっていません。その証拠に、県内に訪れる釣りのお客さんの来てくれる人数が、去年あたりでその当時の 2 分の 1 以下まで下がっています。そして今シーズンは、天候不順の影響もありまして、その 13 年前の 10 分の 1 以下まで落ち込んでいます。

とにかく、川の状態さえよければ、何々しますから来て下さいと言わなくても、人はひとりで集まってくるんです。また、国交省の工事した後の建設業者の後始末が悪くなっていますから、もう川が荒れ放題です。それを直してただけで余計な出資しなくても、人は集まってくるのではないのでしょうか。そういうところに目を配って欲しいと思います。

#### <知事>

川も大事だと思っています。山形県は河川の数が東北で一番多いんです。そして、山も多くて、山と川が多いということは滝の数も多くて、5メートル以上の滝の数は日本一多いんです。全国 1 位です。そういったことをもっともっと発信することで観光にも資するのかなあと考えています。

今、御意見あったように、魚が昔のようにたくさん泳いでいるような川にすることは、とても大事なことだと思っております。ソフト事業で「魚いきいき清流山形県民運動」という事業を昨年から行っております。といいますのは、これは全国的な潮流なんですけれども、天候とか、いろんな社会的な環境のせいかもしれませんが、魚も全国的に少なくなってきたんです。ダムとかそういうことと関係なく。それとは違った次元で、人間

も少なくなっているけども、そういう生物、魚も減ってきているということが調査ではつきりしてきているので、これは人工的にでも、「山形県の川に行けば、釣りができるぞ」というふうにするのが大事だと思ひまして、その放流、県内各地でその放流みたいなものに、もっと力を入れたらいいんじゃないかと言って、そういった事業を今展開をしているところでございます。

また、ハードのことになりますと、漁場環境の改善ということで、河川堆積土砂の浚渫が必要だという意見をたくさん頂戴しておりまして、可能な限りこれに対応してまいりたいと思っております。ここ鮭川村では、まず鮭川という本当に素晴らしい川があるわけですが、「鮭川流域内水面漁業振興協議会」というのを、今年の8月に設置しました。これ全国で初めてなんです。県で、川を大事にしたいと申し上げましたところ、そういったことも考えたかどうかという国交省のアドバイスもありまして、全国で初めてこういった協議会を設置したところであります。

ハード、ソフト両面からしっかりと対応していきたいと思っております。良好な河川環境ということで、“多自然型川づくり”という考え方に沿って取り組んでいきたいと思っております。いくら河川の土砂を浚渫して採っても、また大雨がきて、また土砂が溜まってしまふというような自然との繰り返し、いたちごっこみたいなのところもあるんですけども、できる限りそれをやっていかなければいけないと思っております。防災上も必要なんですね。魚などの生物が住みやすい環境をつくるということもありますけれども、防災上からも取り組まなければいけないと思っております。ただ、自然が相手のところで難しいところがありますけれども、河川環境の保全にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

#### <最上総合支庁建設部長>

河川の浚渫も、先ほどの道路と同様ですけれども、地元の市町村の方からも、多数要望をいただいているところでございます。すべてを同時にというわけにはなかなかまいりませんので、地元の市町村の役場の方といろいろ相談させていただいた上で、順番を決めて順次対応しているところでございます。ただ、県だけの事業で完全にそういった対応がとれるということでもございませんので、最近では、公民協働と言っておりますけれども、地元の皆さん、あるいは民間企業との協働によりまして、公募型による支障木伐採、河床掘削といった河川管理も行っているところでございます。

今後とも、できる限り適切な維持管理に努めてまいりたいと考えております。

## 4 最上地域の医療と病院について

### <意見者>

県立新庄病院に新しい機材が入るという話も聞いたことがあるんですけども、新庄最上の人たちの一番の心配は、冬場、今の県立新庄病院は駐車場が狭く、車ぶつけたとかこすられたとか、そういう問題が多々ありました。改築って書いてあるんですけども、新庄最上の道路の方も整備されてきていますので、その新たに道路整備された近くに、山形の中央病院とか酒田の日本海病院のように、道路の脇というか道路と隣接しているような場所にできれば新たに病院を造っていただきたい。

今、この新庄最上で産科の医師とか、お子さんが産める場所が県立病院しかないよ

うな状況ですよ。それで、庄内村山置賜からみれば、人口当たり比率にしても 100 名ほど、看護師にしても 100 名ほどの不足となっているのが現実だと思うんです。

新庄最上のお医者さんっていうのは、1 日でお医者さんが診る数が何百人っていうか、多い人だと 200 人ぐらい診るお医者さんもいるっていう話を聞いて、患者さんの病状とかそういうところまではタッチできないんじゃないかなという心配があるんですよ。

そういう医療が充実すれば、人口だつてたぶん定着してくると思うんですよ。そういうところから、もうちょっと新庄最上というところを考えてもらいたいし、もうちょっと新庄最上の方に目を向けて欲しいと思います。

### <知事>

新庄最上の方々が安心して生活できるという点で、医療・福祉はすごく大事なところかなと思っております。

それで、県立新庄病院のお話を今伺いました訳でありますけれども、最上地域の方々、確か何万人ですか、かなりの数の方々から署名運動いただいたりして、今、検討委員会というのを、「山形県立新庄病院改築整備検討委員会」という名称でありますけれども、そういったものを設置して、検討してもらっているところでもあります。改築って書いてあるんですけど、実際は新築で、改築ってうとなんかね、「一部分だけやるのか。」とか、そうじゃなく、新築だと考えていただいて結構だと思います。今、病院があるので、改築っていう言葉を使うんですけどね。

道路に面したものというお話もいただきましたけれども、今、検討委員会でいろいろなこうどういった機能が必要かとか、こういった機能も追加してとか、いろいろお話をさせていただいているはずなんですね。それで、場所はまだ決まっておられません。お話を伺いますと、駐車場が狭いとか、いろいろなことをお聞きしておりますので、その内容を検討する中で、では現在のところでもいいのかとか、いろいろなっていくと思いますので、場所はまだ未定なんです。そういった内容をしっかりと検討して、その環境というものも検討して、場所が選定されるのかなと思っておりますので、ぜひ見守っていただきたいし、御意見もどんどんいただければと思っておりますのでございます。

私、他の病院にいかなくても済むように、新庄病院を最上地域の医療の殿堂にしたらいんじゃないかと言っております。内容の検討委員会で、私が、今どうこういうわけではないのですけれども、ヘリポートも必要だつてことになれば、それだけの堅固な建物にしなればなりませんし、最上の人方が安心して住めるような、その基盤としての病院をしっかりと造っていければなど。しかも福祉的なものもね、加味した方がいいんじゃないかと私も思っているので、そういうようなことも、そつとは言っているんですけども、皆さん方の御意見をお聞きしながらしっかりと検討している最中でございます。

最上地域に目を向けてないと言われると、ちょっと私もつらいものがあります。ちゃんと、高速道路も繋げたり、かといって繋いだ時に、通過点になられては困るわけですよ。そのときに最上地域で観光してもらったり、最上地域の産物を買ってもらったりというような、そういうことをしっかりと取り組んでいかなければいけないということを申し上げております。医療も福祉もしっかりと最上の皆さんのお話をお聞きしながら取り組んで行きたいと思っておりますのでございます。

## 5 いじめ再発防止について

### <意見者>

いじめに関するマスコミの報道には、残念ながら耳を傾けざるを得ないと思います。県としてもいろんな対策「アンケートの実施」、「個別レター」、「保護者からの聞き取り」など、さまざまな角度で対応策を実施していることは評価できると思います。しかしながら、いじめの多くは学校内で行われている事実でございます。見逃さない・育成・教育など本来の学校教育、県教育委員会としても、事実が大きくなるように、やはり見逃さない・育成・教育など、本来の学校教育・スポーツ等への精力が傾注できるように指導の強化を図っていただきたいと思えます。

現在、鮭川村ではいじめは全く無いということでありますけれど、首長自ら陣頭指揮をとっていただき、身近な地域から絶滅させる意欲をもって対応していただきたいと思えます。決して、隠すこと無く、見逃さない、チームワーク、指導、全教職員、教育委員会各位との腹を割った会議の「場」を共有することが不可欠であると思えます。

### <知事>

今年の10月末に、平成26年度の問題行動等調査ということが公表されました。その中で、山形県のいじめ認知件数ですけれども、総数で4,538件でした。御承知かと思いますが過去最高でございます。また、いじめが発覚したときに解消するということが大きな目標、目的になりますけれども、解消したという割合も92.9%でございます、これも過去最高となったところでございます。全国平均を上回っているところでございます。いじめというのは、こういうことだという定義がされてアンケートなどで「これもいじめに入るんだ」というような認識がかなり浸透して「これもいじめだ」、「あれもいじめだ」と認識されて件数が多くなったんだと思っております。実態的なものがすごく増えたということよりも、「これもいじめなんだな」ということで、どんどん「いじめがあります」ということで件数が増えたと認識をしております。それに対して学校としてなるべく早く対処するというのをやっているから、その解消割合も過去最高になっているというふう考えているところでございます。

なんといっても、どの子どもにもどの学校でも、いじめというのは起こり得るんだという考えに立って、意識を持って、重大な事件になる前にしっかりと防いでいくことが大事だということで、未然防止、再発防止というところがとても大きなポイントになるだろうと思っております。

子どもたちが自分の目標に向けて、明るく楽しい学校生活を過ごすということが大事でありますので、地域の皆様からも一層のお力添えをいただくことが重要だと思います。このため県では、関係者が一堂に会しての「県いじめ問題対策連絡協議会」というものを開催しております。関係機関団体の連携を図りながら、いじめ問題への対応を行っているところでございます。さらに教育委員会の中に「山形県いじめ問題審議会」というものを設置しまして、いじめの実態について情報を共有し、いじめ問題に対応するというので、しっかりと検討をしているところでございます。いじめは絶対よくないんだ、ということをして社会全体でこれを発信する。そのことが子どもたちも「やっちゃいけないんだ」という善悪の認識につながると思っております。「いじめ・非行をなくそう山形県民運動」というのを、山形県で平成25年度から行っております。県民挙げていじめの根絶に向けた取組み

に力を入れているところでございます。

ただ何回も同じことの繰り返しになりますが、いじめはどの子にも、どの学校でも起こりうるというそういう意識をしっかりと持って、対応していくことが大事なんだろうと思っているところです。そういうことではありますが、鮭川村でいじめがないということは、すごく素晴らしいことだと思っています。それは村民の皆さんがそういう意識を持つといますか、もともといじめというような雰囲気ではない、素晴らしい地域なんだろうなと思っているところです。ただ、今 IT 化が進み、いろいろな隠れたところで何が起こるかわからないというような事情もありますので、「準備おさおさ怠りなん」といいますか、常に緊張感を持って取り組んでいくことが大事だと思っておりますので、もっともっと村民を挙げたいろいろな運動をよろしくお願ひしたいと思ひます。

## 6 やまがた創生総合戦略－挑みの八策について

### <意見者>

戦後 70 年と言われておりますけれども、先般のベビーブームから、高度経済成長ということで、常に右上がりの日本の社会であったものが、リーマンショック以来、経済の逼迫、閉塞感が漂い、そして、いつの間にか人口が減少してきて、高齢化社会、あるいは少子高齢化社会というようなことになってきております。その現象は、地域コミュニティにおいても、非常に大きな影響を与えておるわけです。その一つが、生産人口、いわゆる労働人口にあたる青少年が少なくなってきた、地域を支える力が弱くなっているんじゃないかなと考えており、今後その傾向も強くなっていくのではないかと憂慮しているところであります。

鮭川村においては、人口動態が発表されてから、いろいろショックな感じもあったわけですが、今は「人と自然と文化の輝くむら 鮭川」という将来像のもと「第 2 次鮭川村総合発展計画」を立て、そして人口減少に対応し「鮭川村まち・ひと・しごと創生戦略」を策定して鮭川村の発展を考えているところであります。

山形県で 10 月に策定された「やまがた創生総合戦略」では、「挑みの八策」ということを提唱されていると聞いております。今後のその八策を元にした山形県の総合戦略についての要旨や、今後の取組みなどをお伺ひしたいと思ひます。

### <知事>

やまがた創生総合戦略、たくさんあるんですけれども、その中で山形県で特に力を入れていく 8 つの項目を「挑みの八策」として掲げているところでございます。

一つ目が「6 次産業化を推進して『食産業王国やまがた』を実現する」ということであります。さくらんぼやラ・フランス、野菜、牛肉、豚肉、山菜、きのこ、お米では、質の高い、そういった食の資源が本県にはございますので、それを活かして、生産、加工、流通・販売に一体的に取り組む 6 次産業化を推進して「食産業王国やまがた」の実現を図るということであります。県内各地に素晴らしい農林水産業がありますので、地域活性化という意味でもしっかりと取り組んで行きたいと思ひます。

二つ目が「森のエネルギー、森の恵みを活かして『やまがた森林ノミクス』を推進する」であります。山形県は、本当にものすごい広大な森林面積をもっておりまして、それが活かされておられません。山形県の県土ですけれど、東京都と神奈川県と千葉県を合わせたぐら

いの面積あるんですね。そのぐらいの広い面積の中の 70%以上が森林になっています。最上地域の 8 割が森林だということでもありますけれども、本当に森林が多いんです。これをもっともっと活用しなきゃいけないということで、最上が先進地であると思っております。県内全域でしっかりと林業を振興して、地域経済を活性化したいというのが『やまがた森林ノミクス』でございます。それをしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

三つ目が「再生可能エネルギーで経済活性化と持続可能な社会の構築」であります。山形県は、風力、太陽光、また水力というのが、全国でも高いポテンシャルだということが分かっておりまして、風力エネルギーというのは、だいたい海端に近いところなんですけれども、内陸でも、鮭川村の与蔵峠で 1 年間に亘って風況調査を実施して、現在結果のとりまとめを行っているところだということでもあります。また今年の 9 月には、都道府県として全国初の取組みとなる「やまがた新電力」という会社を設立いたしました。これで、県内の再生可能エネルギーの発電事業者から、電力を買って、そして県内で必要とする方に供給する、地域供給ということになりますけれども、そういった仕組みをしっかりと作って持続可能な社会をつくっていききたいと思っております。

本県に原発が無いというのは、安心して暮らせる、安全安心な県ということで謳っていくことができると私は思っています。今後も、原発を受け入れる気はございませんで、山形県内の資源を、しっかりと活用してエネルギーを開発していく、これが大事なところだと思っています。それで、最上地区は特に木がいっぱいありますので、もっともっと木を使いたいと思っております。来年ですかね、新庄に集成材工場がくることになりました。また、庄内の方では、木質バイオマス発電も、もう櫛引で始まっております。火入れ式も行われました。そういったことで、どんどんと木材を使う場面が実際に増えていきますので、そうしますと、私は、木や山の価値が上がっていくと思います。上げていきたいんです。そうやって、林業をしっかりと振興していきたいと思っております。

四つ目は「観光立県」です。観光もしっかり取り組んでいくことで、仕事の場をつくっていききたいと思っております。雪というものも大変大事だと思っておりますし、やっかいものだと思わずに、観光に資するように取り組んでいきたいと思っております。マイナスのスパイラルではなくて、プラスの、雪が降るとそこにお客さんが来て、そして旅館に泊まって、そして飲んで食べて、お土産を買ってってもらって、好循環というものをしっかりとつくっていききたいということで、一步踏み出します。山形県内のいろいろな地域で雪のイベントあるんですけども、とがったものがありませんでした。ですから、雪まつりというのを立ち上げまして、そこが雪のイベントのオープニングだというような位置付けをして、全国、海外からのお客さんに来てもらえるようにして、あとは、いつでも県内どこかでは必ず何か雪のイベントがあるぞというようなことで、雪の時期にもお客さんに来てもらって、地域経済を潤すようにしていきたいと思っております。

五つ目は「若者・元気シニアの定着・移住プログラムを展開する」であります。若者を対象とした県内企業についての情報発信ということをしっかりやります。また、就職のための経済的支援ということで、就職まで一貫して支援するということであります。交通費の助成などを始めております。また元気なシニア、定年になってもまだまだ元気なわけですから、都会からふるさとに戻って移住してもらって、ふるさとのために働いたり、またそこでいきいきと暮らしていただくというようなことを取り組んでいきたいと思っております。そのための、情報発信、相談体制を充実していきたい、住宅支援までの総合的な支

援を展開して行きたいと思っています。

六つ目が「日本一の三世代同居で子育て支援」であります。山形県は、三世代同居率が日本一であります。ただマイナスの側面があつては、三世代同居したくないとなつちやいますので、嫁さんになって苦労した人もいるわけでありますから、そういったところを改善しながらみんなが幸せに暮らしていけるような体制をとりながら、子育て、そして介護というものをしっかり、できる限り、三世代同居で吸収していく、これ社会福祉の分野にも繋がるんですが、お互いに支え合う、そしてその中で生きがい、喜びというものを感じることが大事だと思いますので、三世代同居のための住宅の新築やリフォームに対する助成を行っております。

七つ目が「やまがたウーマノミクス」なんですけども、山形県の女性の就業率が、確か全国2番目ぐらいに高いです。福井県が1番目だったかなと思うんですけど、2番目ぐらいに高くて、女性がこれだけ働いているのに、女性が登用されているかという、登用されていないんですね。男性も女性も、みんながいきいきと暮らしていけるようにすることが大事だと思っています。登用率というのをもっと上げていった方がいいんじゃないかなと思っています。今度、酒田市で女性副市長さんが誕生するようでありますけれども、明るい話題だと思っています。私は、女性知事、全国でたった二人のうちの一人なんですけど、女性が女性がというような気はありません。いつも、人間として政策を行っております。そして、もちろん男性方のお力添えもいただいているからこそ、やっておられると思っております。女性、男性、両方の視点が入るような社会といいますか、みんなが暮らしていやすいそういう社会をつくっていくことが大事だと思つているところがございます。そういうことで、女性のいろんなアイデアをもっともって出して行けるような産業界の事業をやればと思います。

以前、東根にある、ストーブを作っている会社を訪問したことがあるんです。そのとき、その社長さんが言っていたんですけども、「俺たち男だと黒いストーブしか思い浮かばなかった。」と。でも、若い女性社員が「ピンクのストーブもあつたらいいね。」「黄色いストーブもあつたらいいね。」って言って、それを作ってみたところとても評判がよくて売れているんだそうです。幼稚園とか保育園とかでね、そういうところで、きれいなかわいい色のものが売れているらしいんですね。ノンアルコールビールも、あれも女性の発想なんですね。そういったことで、男性の発想はもちろんですが女性の発想もいろいろ取り入れていくことで、まだまだ経済活性化していけるところがあると思つているんですね。もっともって、そういうアイデアを活かせるような仕組みが必要ではないかと思つています。

最後の八つ目ですけども「文化等を通して地域への愛着・誇りを醸成」であります。これは、もう鮭川村さんでいえば、鮭川歌舞伎を始め、すばらしいいろいろな伝統芸能があります。そういった文化というものをしっかりと地域の人で守り、また子どもたちに伝えて、「ここはこういうのが伝わっているすばらしいところなんだ。」ということをもっともって、誇りを持ってもらう、愛着を育てていくということが大事だと思つています。

皆さんと一緒に、取り組んで行きたいと思つています。

## 【その他の質疑】

### 7 一般県道曲川新庄線の整備促進について

<意見者>

県の重要事業として、曲川新庄線の居口橋の改良の件について、御尽力いただき、ありがたく思っております。また、今年は、ちょっと予算のほうも少なかったんですけども、無事、用地買収も済み、一部わずかではありますが、工事も着工いたしました。お年寄りがいっぱいいます。65 以上も半分以上なんです。ですので、なるべく早く道路を完成していただきたいという要望です。それにしても、ちょっと予算が、なんか思うようについておりません。この分ですと、だいぶかかるのではないかと思います。ですので、なるべく多くの予算を付けていただき、早期の完成を目指していただきたいと思っております。

もう一点は、うちのほうに花屋さんが2軒あります。前にも県にお願いしてあるんですが、花運搬の為の大きなトレーラーが入って来れないところが2、3箇所あるんです。大型さえ入れれば、花を小運搬することなく、そうしますと市場がどんどん伸びて、大阪にもどんどん行けるという話を聞いておりますので、別線ルートの居口橋の他にもその3箇所、早めに道路を直していただいて大型車がスムーズに入れて、花の運搬がスムーズにできるようにぜひお願いしたいと思っております。

#### <知事>

前にも、ちょっとお邪魔したことがありましたけれど、4年前ですかね、お邪魔をさせていただいて現状を見せていただきまして、要望を頂戴したということ覚えております。あのあと、しっかりと取り組ませていただいたところがございます。今日の要請をしっかりと受け止めてまいりたいと思っております。

#### <最上総合支庁長>

県職員になって若いとき、大芦沢に真冬も何度も通った経験がございます、その時からもうちょっと、道路が良くなれば良いなと感じております。最近も行かせていただきましたが、その思いは全く変わっておりません。限られた予算の範囲内という話でしかできないわけですが、できるだけ早めに、改良工事完成するように、その手法等の考え方をきちんと整理していきたいと思っております。

#### <知事>

すばらしいバラを関西にもということだと思いますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

以上